

超長期ビジョンの検討について

【超長期ビジョン】平成17年度の検討経緯

平成17年

- 5月頃 環境省内で検討を開始
- 8月 環境省・国環研による意見交換
- 10月 アドバイザリーボード予備会合
環境省・国環研による意見交換
- 11月 第1回アドバイザリーボード
- 12月 環境省・国環研による意見交換

平成18年

- 1月 第2回アドバイザリーボード
- 3月 第3回アドバイザリーボード
- 4月 第三次環境基本計画閣議決定

超長期の展望の提示 (環境基本計画の記述)

2050年 = 世界人口90億人、中印の台頭など世界経済成長の中心となるアジア...
地球環境は現在でも深刻な状況。今の趨勢のままでは、環境・資源制約など多くの問題に直面

目標
2050年頃の世界、アジア及び日本の環境を見通した超長期の展望を提示
超長期の将来を見据え、環境保全に関する取組の方向付けや社会システムの見直しがなされる社会を目指す。

施策の基本的方向

- (1) 複数シナリオの提示
- (2) 望ましい将来像とバックカスティングという考え方
望ましい将来像を描き、目標時期までに実現するための段階的経路を検討
- (3) 対応策・政策手法の検討
技術の大きな転換
制度的対応
ライフスタイルなど需要面の変化
社会参加・政策過程の変化
- (4) 国際的発信

主要な論点

- 温暖化効果ガスの大幅な削減 脱温暖化社会とは？
顕在化する温暖化の影響 どのように対応？
- 深刻化が予想されるアジア地域の環境問題 どのように持続可能な開発を進めるか？
- 地域的危機 どのようにかかわっていくか？
- 本格化する環境・資源制約 循環型社会をどう形成？
- 国内からアジア太平洋地域の生物多様性をいかに確保するか
- 国内の少子高齢化・人口減少 社会資本と二次的自然の維持形成のあり方
- 自然資源の国際的需給が将来逼迫 第一次産業をどのように活性化させていくか
- 将来への「負の遺産問題」への対応
- 環境リスクの早期発見・早期対応のための取組
- 高齢者の社会参加を含むライフスタイル・地域社会づくり
- 先進的な技術・研究・経験を踏まえた世界への貢献

超長期ビジョンの役割

既存の政策課題や組織にとらわれない超長期的な視点から

1. 今後50年を見据えた最重要課題を抽出
2. 不確実性に対応しつつ、いつまでに何をしなければならないか、を科学的に提示
3. カギとなる政策手段の提案、効果のシミュレーション

具体的な政策手段検討へのガイドライン